

「SOGI」とは多様な性的指向や性自認。私たちは毎月の定例会で、院内でのSOGI支援推進のために色々な議論を行っています。

答えが出ないことも多いですが
私たちがどんな検討を
行っているのかを定期的に
ご報告いたします。

今回の議題

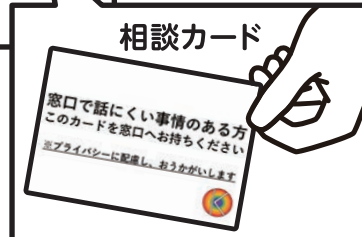
院内SOGIマップ作成

SOGI支援チームは、本学の「高知大学におけるSOGIの多様性に関する基本方針（令和4年1月27日制定）」に準拠し、当院内で以下の目的を達成するために活動しています。

研修、提言などの活動を通じて
附属病院職員のSOGIへの
理解を深めること

多様な性の在り方を持つ人々が
苦痛なく安心して受診、治療を
行うことができる院内環境
づくりに資すること

チーム発足以来
取り組んできた
設備や窓口の情報を
マップに
まとめました。



SOGI支援チームが発足してからこれまでの活動を振り返ると、院内の環境も着実に変化してきましたね。改めて、これまでの取組について振り返ってみましょう。



最初は総合研究棟1階の「だれでもトイレ」の整備検討から始まりました。今では食堂をはじめ、D棟など多様性に配慮した設備が院内に広がっています。



環境面だけでなく、目に見える「安心の印」も増えました。初診受付やインフォメーション、総合診療部外来、患者相談窓口の4箇所にレインボーフラッグと相談カードが設置されました。さらに、研修を重ねてレインボーバッジを付けた院内アライ※は、多職種で170名を超えるまでになりました。

※アライとは、同盟、仲間、味方などを意味する英単語。性的少数者にとつての理解者、支援者を意味します。



支援体制は広がっていますが、当事者の方々による視察では「どこに何があるか分かりにくい」という声もあり、周知が十分でないことが課題です。そこで、当院のサポート体制を正しく知ってもらうために「院内SOGIマップ」を作成したいと考えています。



いいですね。職員がマップを把握していれば、患者さんを適切な窓口や設備へスムーズに案内できます。これは、当院が「安心して受診できる病院」として選ばれるための大切なことです。具体的な検討を進めていきましょう。

チーム発足以来取り組んできた設備や窓口の情報を「院内SOGIマップ」にまとめました。
このマップは当事者の方だけでなく、職員にも当院の取組を正しく知ってもらうきっかけになれば幸いです。

2F



患者相談窓口



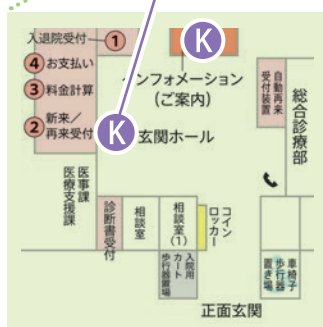
渡り廊下のポスター掲載の様子



初診患者受付



1F



K レインボーフラッグと
相談カードを設置場所

T だれでもトイレの設置場所

P ポスターの掲載場所

だれでもトイレ
(1F 食堂)



多様性に配慮した「だれでもトイレ」を設置しました。

編集後記

今号では、「院内SOGIマップ」を掲載しました。

このマップを作成した背景には、以前実施した当事者団体による院内視察において「必要な設備や窓口の場所が、外部からは分かりにくい」という指摘を受けたことがあります。当院ではこれまで、支援体制の強化に向けてさまざま取り組んで参りましたが、それらの情報が十分に整理されていませんでした。

今回のマップは、当事者の方への案内図であると同時に、職員が自院の体制を正しく把握するための資料でもあります。現在、名札にバッジを付けた院内アライは170名を超え、多職種に広がっています。職員一人ひとりがこのマップを共有し、どこにどのような配慮があるのかを知っておくことで、患者さんからの問い合わせに対して、より円滑な案内が可能になると考えています。

バッジやフラッグといった「印」は、適切な対応を行うためのきっかけの一つです。誰もが安心して受診できる環境づくりを、引き続き進めてまいります。

皆さまのご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。
ます。

チームでは、色々な部署からのご相談をお待ちしています。
みんなが過ごしやすい病院になるように一緒に考えていきましょう。

高知大学医学部附属病院 SOGI支援チーム

問い合わせ先 E-mail: sogi-kms@kochi-u.ac.jp